

# 論文審査の結果の要旨

氏名 DAVIVONGS Vudipong

(ダビボン・ブディポン)

本論文は全5章から構成される。

第1章には論文の背景・目的・構成が示されている。バンコク大都市圏では、急速な都市化に伴う農地の変容が問題となっている。農地の変容には、①市街化により直接農地が失われるものと、②市街化の影響で灌漑用水路が潰廃され、農地の維持が困難となり農地が失われるものの、2つのパターンがあるとされる。本論文では、食料供給や環境保全機能の発現の観点から、市街地と農地は併存すべきという立場がとられており、そのためには、不可抗力的に農地の喪失を誘発してしまう上記②のパターンを防ぎ、農地を維持することが重要だと指摘されている。本論文では②のパターンを、「非意図的な農地の変容」(Unintentional transformation of agricultural lands)と称しており、これを防ぐための計画を展開するための基礎的知見を提示することを、研究の目的に掲げている。目的を達成するための研究課題は、(1)「非意図的な農地の変容」の実態解明、(2)変容の可能性の高い農地の同定の2つとされ、課題(1)が第3章に、課題(2)が第4章に対応する構成をとっている。なお本論文の対象地は、在来型の灌漑用水路が整備されており、農地の変容が進んでいる、バンコク大都市圏ノンタブリ州バンラクノイ地区に設定されている。

第2章では、本論文に関係する既往論文のレビューがなされている。ここでは、バンコク大都市圏における都市の拡大に関する文献や、市街地と農地の併存を主張する論などがレビューされ、本研究の立場を明確なものにしている。

第3章では、「非意図的な農地の変容」の実態解明がなされている。研究手法はインタビュー調査及びアンケート調査である。インタビュー調査は3つの代表的事例に対して行われ、アンケート調査は調査員が直接面談し、その場で回答を得る方式で200人の住民に対して実施されている。本章では、インタビュー調査の結果にもとづき、市街化の影響で灌漑用水路が潰廃され、農地の維持が困難となり農地が失われる事例が詳細に記述されている。さらにアンケート調査によって、灌漑用水路の潰廃及び農地の喪失をもたらす要因に関して、定量的な分析がなされている。

第4章では、第3章の実態解明を受け、将来的に施策を講じるべき場所を明確にするために、変容の可能性の高い農地の同定が行われている。用いられているデータは空中写真、地籍図、水路地図であり、地理情報システムによる解析が行われている。本章では、農地の変容には、その農地に水を供給する水路の所有形態、次数、本数が関係しているとの仮説が設定されており、まず、どのような条件の際に土地の変容が起りやす

いかについて、1987年から2010年間の農地変容率を指標にして明らかにされている。そして明らかにされた条件に従い、変容可能性が相対的に高い農地を同定している。

第5章では、2つの研究課題の成果と既往の施策のレビューに基づきながら、「非意図的な農地の変容」を防ぐための具体的な手立てが論じられている。さらにこれまでの議論を総括することにより、本研究の結論が示されている。

論文審査においては、都市化・工業化が進むバンコクにおいて都市近郊農地を保全する必要性、近代的水路システムに対する在来型水路システムの優位性、本研究の成果を実際の施策に活かすための道筋などについて、更なる考究が必要であるとの指摘がなされた。また、論を進めるにあたって必要な情報の記述がやや不足しているとされ、とくに、農地の形状や水路の高低差等の情報を含んだバンコクの農業に関する基本的情報、近代的水路システムと在来型水路システムの違い、開発業者の意見や開発許可のための手続き、バンコク大都市圏における研究対象地の空間的・社会的位置づけ等について、更なる記述が必要であることが指摘された。

しかし、今後の世界的潮流からしても、農地の保全を基軸としてアジア大都市の環境保全を論じることの計画論的意義は大きく、本論文において、これまで指摘されてこなかった「非意図的な農地の変容」について、それを防ぐために必要な情報が社会調査・空間解析の両面からの的確にまとめられたことは高く評価され、学位に値する成果との結論に至った。なお、論文審査における上記の指摘は、その後の修正を通じて最終提出稿に的確に反映されている。

本論文の第3章から第4章にかけては、横張 真との共同研究の成果を含むものであるが、いずれの章の議論も、論文提出者が主体となって分析及び検証を行ったもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

従って、博士（環境学）の学位を授与できると認める。